

# ゴミ調査をテーマに

## 今治明德短大の歩き遍路体験

### 今年は27番神峯寺まで



第22番平等寺山門で、出発前に氣勢をあげる明德短大生

てきた」と語った。

また、四日目の宿舎二十六番金剛頂寺では、三十番奥の院安楽寺・小角隆幸住職が節談説教を披露した。

【へんろ小屋】徳島県出身の建築家・歌一洋さんの発案で建設が進んでいる。構想では遍路道沿いの八十九箇所、現在六棟完成している。阿南市鉦打のへんろ小屋は第三号、歌さんの設計で地元有志が資材を提供した。この日へんろ小屋に集まったのは同市福井町の井坂文子さんはじめ九名。日ごろから小屋周辺の整備をしたり、時々のお接待役をかってでている。

#### 【節談(ふしだん)説教】

説教に節をつけ、ゼスチャーを交えながら聴衆に訴える。浄土真宗の布教を目的にはじまったが、明治のはじめに真言宗豊山派の権田雷斧大僧正(後の管長)が学んだ。落語や講談、浪曲など高座芸能の源流といわれる。現在、節談できる僧は全国でも数える程しかない。

九月十五日、今治明德短大(愛媛県今治市、佐藤晃一学長)の学生二十一名、教職員七名が第二十二番平等寺から歩き遍路体験学習の旅に出た。

同学は一昨年からの地域文化論の一環としてカリキュラムに取り入れ、昨年は一番霊山寺から平等寺まで歩いた。今年は五日間かけて二十七番神峯寺まで、予定では八年かけて結願する。

四月から学外の講師も含め計七回の講義を受

け、装束の作成、三十キロの一日歩き体験、旅程計画などを経て本実習に備えた。

鴻上佳之くんら三人のグループは道路周辺のゴミ事情調査をテーマに取り上げた。空き缶、ペットボトルなど驚くほどのゴミの量である。不法投棄と思われる大量のゴミも発見した。さすがに遍路道は少なかつたという。調査結果を発表し、

通行者のマナー向上について話している。調査結果を発表し、

が、道中に課題を求めたあたり三年目の進化を感じる。受講生の中には特別参加の神戸大学生・田川真希さんもいた。一行は阿南市鉦打のへんろ小屋で地元有志のお接待を受け早めの昼食、二十三番薬王寺を目指した。昨年同市の阿瀬比接待所で学生を励ました桑野公民館長の鎌田武さんは、「若い人に命、心を大切にする教育が必要。この企画は素晴らしい」と思い、今年も出かけてきた」と語った。